

平成 27 年度 事業報告の概要

公益財団法人仙台市市民文化事業団

平成 27 年度事業の概況

- ・東日本大震災から 4 年が経過し、仙台市の震災復興 5 年計画においては最終年度となるなか、文化芸術の鑑賞機会や学習機会を幅広く経常的に提供していくことはもとより、震災の記憶を後世に残す事業、被災した人に寄り添う事業、地域住民の心の拠り所となる事業についても、引き続き取り組んだ。
 - ・次年度の財団設立 30 周年を大きな節目ととらえ、「指定管理者制度」や「劇場法」などの重要なテーマを踏まえながら、既存事業の点検・総括、新規事業の開発・試行に努め、各施設とりわけ「劇場」の一層のにぎわいを高めることを意識し、各事業を行った。また、地域文化を担う人材との連携を推し進めながら、30 周年記念事業の準備を進めた。
 - ・仙台市の文化振興施策と緊密に連携し、外部資金導入の拡充を進めながら事業体系を充実させるとともに、職員の意識や資質の向上を図り、公益財団法人として健全かつ適切な組織運営を継続した。
- 下記 (1) ~ (4) の事業体系に基づき、当財団の公益的使命を認識しながら事業を遂行した。

平成 27 年度事業の概要（経費／単位千円）

(1) 支援、協働、人材育成事業

芸術表現や事業制作、学習など市民自らが行う文化活動に対して、安全・快適で使いやすい文化施設の提供をはじめとし、広報活動の支援、生涯学習の支援、事業費の一部助成、助言や協働、表現者や制作者の育成事業などを行った。

併せて当事業実施の過程で、当事業団が自主事業を企画・実施する際に必要となる新たな地域文化情報の把握や、人的ネットワークづくり、文化的コミュニティ醸成に努めた。

ア 施設の貸出・管理運営及び利用者への支援・協力

- ・仙台市青年文化センター 管理運営（338,197）/No. 131
- ・仙台市泉文化創造センター 管理運営（112,494）※(株)東北共立、石井ビル管理(株)とのグループ/No. 132
- ・仙台市歴史民俗資料館 管理運営（62,009）/No. 82
- ・仙台市富沢遺跡保存館 管理運営（79,656）/No. 92
- ・仙台市縄文の森広場 管理運営（41,031）/No. 105
- ・仙台文学館 管理運営（170,473）/No. 121
- ・せんだいメディアテーク 管理運営（536,790）/No. 133
- ・せんだい演劇工房 10-BOX 管理運営（能-BOX 管理運営含む）（25,402）/No. 65

イ 市民企画事業への広報支援・助成・協働

- ・支援・助成・協力事業（20,689）/No. 40

- ・せんだいメディアテーク 発信・施設活用推進事業 (4, 892) /No. 81

ウ ボランティア、地域、教育機関等との協働

- ・仙台国際音楽コンクールボランティア事業 (1, 912) /No. 61
- ・各ミュージアム ボランティア事業 /No. 98, 110 他
- ・各ミュージアム 教育/地域との連携事業 /No. 73, 91, 104, 112, 113, 114, 115 他
- ・イズミティ 21 での市民協働ロビーイベント (373) /No. 11②

エ 人材育成

- ・10-BOX 夏の学校 (1, 934) /No. 29
- ・舞台スタッフ・ラボ (775) /No. 34
- ・せんだい短編戯曲賞 2015 (1, 704) /No. 33
- ・仙台ジュニアオーケストラ運営 (23, 329) /No. 64
- ・演劇—社会アクセス事業 (330) /No. 37

●施設利用者数の比較 (27 年度←26 年度←25 年度)

- ・仙台市青年文化センター利用者 (311, 284←336, 193←326, 286)
- ・仙台市泉文化創造センター利用者 (285, 392←286, 051←292, 849)
- ・仙台市歴史民俗資料館 入館者 (37, 566←36, 435←34, 069)
- ・仙台市富沢遺跡保存館入館者 (41, 168←35, 376←32, 021)
- ・仙台市縄文の森広場利用者 (31, 690←30, 204←31, 469)
- ・仙台文学館入館者 (63, 929←67, 059←57, 945)
- ・せんだいメディアテーク利用者 (419, 272←447, 536←464, 222)
- ・せんだい演劇工房 10-BOX 利用者 (能-BOX 利用者含む) (40, 451←42, 655←35, 724)

※歴史民俗資料館は昨年度記録した開館以来最高の入館者数をさらに上回った。

(2) 普及、啓発事業

文化芸術の鑑賞層を主な対象とし、芸術や文化全般の魅力を幅広く普及していくための事業を多面的に展開し、アーティストや制作者を支え育てる観客・スポンサーやサポーターの裾野拡大を図った。

当事業団ならではの特色ある公演や企画展、文化講座や体験ワークショップ、教育・福祉・まちづくりの現場に「芸術の力」を届けるアウトリーチ事業等に加え、文化情報誌の編集・発行や財団ホームページ運営などの広報事業、イベント鑑賞友の会の運営などを行い、前掲(1)の自主文化活動支援と併せ双方で事業を展開することにより、地域文化の総合的な底上げを図った。

ア 鑑賞公演

- ・仙台クラシックフェスティバル 2015 (86, 036) /No. 2
- ・宝塚歌劇仙台公演 (25, 282) /No. 1
- ・文化庁 劇場・音楽堂等活性化事業 (日立システムズホール仙台) (小池博史ブリッジプロジェクト、オーケストラスタンダード、オーケストラ鑑賞会) (85, 685) /No. 9
- ・こまつ座公演「國語元年」(6, 326) /No. 3
- ・市制施行 126 周年記念コンサート (4, 158) /No. 66
- ・演劇・ダンス公演 (スペイン国立バレエ団公演) /No. 6
- ・ライブ文学館 vol. 5 「宮部みゆき 京極夏彦 東北で語る」(2, 008) /No. 25
- ・古典芸能公演 (仙台青葉能、文楽、市民能楽講座、能-BOX 経常事業等) (5, 140) /No. 6, 30, 35

- ・新春いずみ寄席 (3, 072) /No. 5
- ・10-BOX セレクション (3, 653) / No. 28
- ・れきみん秋祭り (2, 445) /No. 12
- ・日立システムズホール仙台 活性化事業(インド舞踊公演、クリスマスコンサート他) /No. 10③④

イ 展示事業

- ・歴史民俗資料館 特別展「仙台のまちと近代交通」(1, 278) /No. 84
- ・富沢遺跡保存館 特別企画展「3 万年前の旧石器ライフ」(2, 201) /No. 94
- ・仙台文学館 特別展「北杜夫一どくとるマンボウの生涯」(2, 325) / No. 123
- ・仙台文学館 特別展「竹久夢二・絵と詩の世界」(3, 885) / No. 125
- ・歴史民俗資料館 企画展「学都仙台と杜の都」(1, 309) /No. 85
- ・歴史民俗資料館 企画展「暮らしの中のリサイクル」(84) /No. 86
- ・富沢遺跡保存館 企画展「仙台の遺跡④大野田・西多賀あたりの古墳」(75) /No. 95
- ・富沢遺跡保存館 企画展「やきものの歴史」(76) /No. 96
- ・縄文の森広場 ミニ企画展「縄文人の暮らし」(35) /No. 107
- ・仙台文学館 企画展「人と街をつなぐーみやぎで生まれた本・雑誌」(586) /No. 126
- ・仙台文学館 企画展「井上ひさしの江戸」(1, 512) /No. 128

ウ 講座・ワークショップ等

- ・公共ホール現代ダンス活性化事業 (1, 143) / No. 49
- ・(再掲)能-BOX 経常事業 (能の各種体験講座)、市民能楽講座 (4, 140) /No. 30, 35
- ・創造都市推進事業「ワークショップ となりの子育て」(688) /No. 45
- ・各ミュージアムでの講座・ワークショップ (3, 960) /No. 17, 72, 74, 87, 98, 111
- ・バロック音楽&バロックダンス ワークショップとコンサート (870) /No. 10⑥
- ・(再掲)演劇ー社会アクセス事業 /No. 37
- ・音声学ワークショップ /No. 38

エ アウトリーチ

- ・仙台市震災復興のための芸術家派遣事業 / No. 48
- ・アーティストマネジメント事業 (1, 086) /No. 50
- ・(再掲)演劇ー社会アクセス事業 /No. 37
- ・仙台文学館 学芸員出前講座 /No. 74

オ 文化芸術情報の提供・広報

- ・広報事業 (5, 011) /No. 54
- ・事業団友の会運営 (2, 761) /No. 55

●仙台クラシックフェスティバル 2015 (10周年記念開催)

【期日】平成27年10月2日～4日

平成18年度に事業団設立20周年事業として開催以来、震災の年も含め継続した「せんくら」を、当年度は10周年記念公演として開催した。1公演45～30分、1,000円～2,000円と手の届きやすい料金で、親しみやすい曲を中心という基本コンセプトはそのまま、演奏者や演奏曲目のリクエストを募るなど、これまでを支えてくれた市民の声にこたえとともに、合唱、ワークショップなど参加型の公演を増やしたことで、聴衆と出演者がともに10周年を祝う場となった。また、出演者公募による地下鉄駅コンサート、街なかコンサート、小学校等へ出向いての「出張せんくら」を開催したことで、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽が持つ力が来場者にあらためて元気と希望、喜びをもたらした。

【会場・参加者等】日立システムズホール仙台、イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設/3日間で86公演・入場者のべ37,400人

●仙台市震災復興のための芸術家派遣事業

文化庁から委託された「仙台市震災復興のための芸術家派遣事業」実行委員会に事務局の中核として参画し、学校や保育所等170箇所子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。当事業は、震災直後の平成23年度から継続しており、この5年間での実施は計772箇所を数えた。

(3) 交流、創造、発信事業

仙台圏と他地域の人材が交流し、共通の認識を持って協働していく中で、長期的継続も視野に入れながら作品や事業を作りあげ、広く社会に成果を発信した。

参加者・関係者・観客などの立場で事業に関わり触発された若い人材が、年月を経て指導者やプロデューサーとなり、次の若い人材を励まし育んでいくような世代循環の流れも重視しながら、地域文化リーダーの育成やコンテンツの創造、都市間交流、都市ブランドの醸成など、さまざまな成果を期待し、プロデュース型事業を推進した。

ア 顕彰制度・コンクール等

- ・仙台国際音楽コンクール及び関連事業（56,921）/No. 57～63
- ・（再掲）せんだい短編戯曲賞 /No. 33
- ・ことばの祭典－短歌・俳句・川柳への集い（420）/No. 71
- ・土井晩翠顕彰会の支援（晩翠わかば賞・晩翠あおば賞）/No. 77

イ プロデュース公演・企画公演・企画展

- ・（再掲）仙台クラシックフェスティバル2015 /No. 2
- ・（再掲）文化庁劇場・音楽堂等活性化事業（東北タップダンス&アートフェスティバル・プレイベント、小池博史ブリッジプロジェクト等）/No. 9
- ・メディアテーク「対話の可能性～対話のための発信事業」（16,113）/No. 79
- ・地域文化事業「亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす」（6,769）/No. 42
- ・発信・施設活用推進事業（せんだいメディアテーク）（4,892）/No. 81
- ・創造都市事業「RE：プロジェクト」（1,633）/No. 47
- ・地下鉄東西線開業イベント「仙台市 文化の力による心の復興事業」（4,128）/No. 31
- ・市民参画 野外展示「池」環境回復事業（712）/ No. 19
- ・地域文化事業「モノと暮らす」（904）/No. 43
- ・（再掲）れきみん秋祭り /No. 12
- ・オペラ「遠い帆」2014年公演映像上映会（211）/No. 7
- ・全国シニア演劇大会 in 仙台（2,477）/ No. 32

ウ グッズ製作・出版

- ・ミュージアムグッズ開発・販売（864）/No. 27
- ・仙台文学館選書出版・販売（551）/ No. 51, 78

●東北タップダンス&アートフェスティバル・イベント

【期日等】平成27年11月21日～23日 日立システムズホール仙台

仙台出身の世界的タップダンサー熊谷和徳氏と協働し地元仙台でのタップダンスの普及・育成事業を継続してきた中、震災後、タップダンスを通して東北からのアートメッセージを発信しようと、タップダンスのフェスティバルを平成28年度に予定し、当年度はそのイベントとして国内の著名なタップダンサーが集って開催。熊谷和徳氏のタップダンスと、仙台フィルハーモニー管弦楽団特別弦楽メンバーによるクラシック音楽との異色のコラボレーションの他、パネルディスカッションやワークショップなどを開催し、東北のみならず関東圏や関西、九州からの参加者や観覧者が訪れ、3日間のフェスティバルを楽しんだ。参加者・入場者のべ879人。

出演：熊谷和徳、仙台フィルハーモニー管弦楽団、七尾旅人、浦上雄次、細川慶太良、谷口翔有子、Latty Sy、TAPPERS RIOT、TAP the FUTURE in SENDAI、松島純、Daisuke Tanabe

●地域文化事業「亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす」

アートによる地域資源再発見・活用事業として平成24年度からの継続で実施。市民とアーティストが協働で「亜炭／埋もれ木」を切り口に、地域の記憶を掘り起こし、記録を作品化するとともに、市民共有財として広く情報を発信した。当時の証言録取や資料発掘から作品制作を通じて、高齢者の力を社会に活かすとともに、市民の芸術文化活動への参画機会を提供した。当年度は最終年度として、8/8～18にせんだいメディアテークにて、集大成となる展覧会「やまのひかり川のほし」を実施した。参加者・入場者のべ2,658人。

●創造都市事業「RE:プロジェクト」

東日本大震災で大きな被害を受けた仙台市沿岸部を中心に、震災によって失われてしまうかもしれない地域文化を様々な形で伝える事業として平成23年度から継続した事業。当年度は、震災後に取材で訪れた地域を再訪し、地域の5年目を記録するとともに、「オモイデゴハンの作り方」「RE:プロジェクト記録展」の開催や、オモイデゴハン記録冊子を発行し、当事業のまとめと締めくくりを行った。参加者のべ124人。

●対話の可能性 対話のための発信事業 展覧会「物語りのかたち」

【期日】平成27年10月30日～平成28年1月10日 せんだいメディアテーク

市民力育成を目指し、広い対話を誘発するメディアテークからの投げかけとなる事業として、平成25年度から継続してきた「対話の可能性」事業のまとめの展覧会を行った。かたちを持たない民話を題材にした、美術や漫画など現代のさまざまなアーティストによる造形的な表現を通して、現代アートが地域文化の本質を現代に伝えるメディアとなり得ることを広く市民とともに確認した。入場者のべ3,635人。

(4) 総合、その他

ミュージアム常設展などを支える資料収集と保存、文化芸術における各分野の調査や研究、財団全体の事業進行管理・調整・評価・内部研修など、事業全体の成果向上のため必要となる総合的な事業を行った。また、前年度に引き続き震災の記憶を風化させないための記録プロジェクトを継続した。

ア. 調査・研究

- ・歴史民俗調査研究・報告書の刊行 (474) /No. 90
- ・考古学調査研究・報告書の刊行 (144) /No. 99
- ・地底の森ミュージアム遺構分析調査 (347) /No. 102
- ・縄文祭復元事業 (1,796) /No. 23

イ. 資料収集・保存

- ・歴史民俗資料収集・保管 (564) /No. 89
- ・文学資料収集・保管 (8,956) /No. 129
- ・メディアテークライブラリー運営等 (9,507) /No. 134
- ・地域文化アーカイブ (1,508) /No. 80②
- ・震災の記録 市民協働アーカイブ事業 (15,360) /No. 68

ウ. 内部評価・制作管理・職員研修他

- ・管理運営施設(全施設対象)利用者アンケート、職員研修 /No. 56

●利用者アンケートの実施（実施期間：平成27年12月1日～28日）

公共ホール施設及びミュージアム施設の運営管理や事業実施にあたり、さらに良いサービスの提供の指針として、1か月間にわたりすべての有料サービスについて「利用者アンケート」を実施した。

(1) 市民利用施設の予約方法、広報、施設使用感、職員対応について

施設名(回答数)	とても満足	満足	ふつう	不満	とても不満
日立システムズホール仙台(232)	32.9%	39.2%	26.9%	0.7%	0.3%
イズミティ21(83)	31.2%	38.9%	25.5%	4.0%	0.4%
仙台文学館(4)	58.3%	16.7%	25.0%	0.0%	0.0%
せんだいメディアテーク(80)	26.7%	53.4%	16.7%	3.2%	0.0%
せんだい演劇工房 10-BOX(19)	59.6%	31.6%	8.8%	0.0%	0.0%

(2) 演奏会や展示などの広報、事業内容、会場、スタッフ対応について

事業名(回答数)	とても満足	満足	ふつう	不満	とても不満
サントペテルブルク室内合奏団(130)	18.9%	41.5%	36.3%	2.6%	0.6%
小池博史創作ワークショップ(7)	35.7%	39.3%	17.9%	7.1%	0.0%
街かどガラ・コンサート(48)	22.6%	41.2%	36.2%	0.0%	0.0%
歴史民俗資料館 常設展・特別展「仙台のまちと近代交通」(36)	41.0%	38.2%	20.1%	0.7%	0.0%
地底の森ミュージアム企画展「やきもの歴史」(86)	28.7%	44.3%	24.6%	2.1%	0.3%
縄文の森広場 常設展・ミニ企画展「縄文人のくらし—食べ物と生活」(42)	19.6%	44.6%	33.9%	1.8%	0.0%
縄文の森広場 体験(50)	59.0%	27.5%	12.0%	1.5%	0.0%
仙台文学館 常設展・企画展「人と街をつなぐ—みやぎで生まれた本・雑誌」(21)	22.2%	61.7%	16.0%	0.0%	0.0%
仙台文学館 講座4種(184)	26.2%	47.8%	24.2%	1.2%	0.6%
せんだいメディアテーク「物語りのかたち」展(126)	24.7%	34.2%	36.5%	4.2%	0.4%
10-BOX キラキラ劇場(52)	31.3%	41.3%	25.0%	2.4%	0.0%

公益財団法人仙台市市民文化事業団 平成27年度 事業報告書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考

(単位:千円)

(1) 芸術文化振興事業

① 公演事業						
1	宝塚歌劇星組全国ツアー仙台公演	6/20～21	イズミティ21	25,282	40,383	入場料 39,597 広告料 350 その他 436
	仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施。2日間・4ステージで第1部ミュージカル「大海賊ー復讐のカリブ海」、第2部レビュー「Amourそれは…」を上演した。出演:星組 北翔海莉(はくしょうかいり)、妃海風(ひなみふう)他。					入場者:のべ5,754人
2	仙台クラシックフェスティバル2015 (10周年記念公演)	10/2～10/4	日立システムズホール仙台他	86,036	79,014	市負担金 23,000 入場料等 45,092 協賛金 10,922
	平成18年度に事業団創立20周年記念事業として創設し、10回目を迎える今回は、基本コンセプトは変わらないが、出演者や演奏曲目のリクエストを募るなど、これまで支えてくれた市民の声に応えるとともに、合唱、ワークショップ等参加型の公演を増やし、聴衆と出演者がともに10周年を祝う場となった。 ・ホール公演は、45分～60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しめる場とした。また、地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で86の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのはしご鑑賞を提供した。 ・地下鉄駅コンサート、街なかコンサート、小学校や市街地に出演者が向う演奏する「出張せんくら」を設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びをもたらした。					入場者:のべ37,400人
3	こまつ座公演「國語元年」	10/8	イズミティ21	6,326	5,791	入場料等 4,728 助成金 1063
	「劇都」仙台の文化振興策として、ハイレベルな演劇鑑賞機会を市民に安定して継続的に提供することを目的に2009年から実施。文学館初代館長井上ひさしの作品を専門に制作しているこまつ座の舞台を上演した。今回は元タカラジェンヌの朝海ひかる他が出演し、好評を得た。演出:栗山民也。					入場者:950人
4	もりのみやこのふれあいコンサート	12/8	イズミティ21	3,764	3,764	市補助金 3,764
	障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に、仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすいプログラムの演奏会を開催した。仙台市及び仙台フィルと共催。					入場者:900人
5	新春いずみ寄席	1/11	イズミティ21	3,072	2,917	入場料 2,917
	小ホールを会場に新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて落語寄席を実施した。13時～、16時～の1日2回公演を行った。					入場者:のべ774人
6	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	1,997	63	その他 63
	放送局や文化団体等が行う公益性の高い文化事業を共催した。継続実施している仙台青葉能、文楽公演(負担金各500千円と小山実稚恵「音の旅」(負担金なし、年2回)、TAP DANCE ART PROJECT in Sendai～Tap the FUTURE～の通年ワークショップ(助成のみ負担金なし)に加え、当年度は仙台オペラ協会創立40周年記念公演「カルメン」(負担金1,600千円)、「スペインの巨匠 建築家アントニオ・ガウディを語る」リレートークショー(負担金800千円)、ブラハ国立歌劇場 歌劇「椿姫」、スペイン国立バレエ団 仙台公演、明治座「かたき同志」、東日本大震災 心の復興祈念コンサート プラームス「ドイツ・レクイエム」(いずれも負担金なし)など、23件を共催。					
7	オペラ「遠い帆」2014年公演映像上映会	7月	エル・パーク仙台	211	0	
	仙台市が7月に開催した慶長遣欧使節出帆400年イタリア記念イベントのひとつとして、仙台市委嘱によるオペラ「遠い帆」(作曲:三善晃・脚本:高橋睦郎)の2014年公演映像上映会をエルパーク仙台にて開催した。					入場者:90人
8	市民文化事業団創立30周年記念事業準備	通年	—	1,654	0	
	平成28年度に創立30周年記念事業として実施する事業の準備を行った。国際舞台で活躍できる音楽家の育成を目的とした「東京藝術大学早期教育プロジェクト」については、ピアノ部門、ヴァイオリン部門および管打楽器部門について準備年規模で実施した。					

②ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

9	文化庁 劇場・音楽堂等活性化事業 (日立システムズホール仙台 文化庁補助事業)	通年	日立システムズホール仙台	85,685	81,996	入場料等 8,159 市負担金 45,400 文化庁補助 28,437 入場者等: ①小学校103校 7,333人 中学校 25校 3,004人 ②1,516人 ③632人 ④公演:415人 パネルディスカッション:77人 ワークショップ: 227人 オープニングパーティ:160人 ⑤公演:317人 ワークショップ:11人
10	日立システムズホール仙台 活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	3,953	1,103	参加費等 68 その他 1,035 ホール施設等の利用促進に向けての活性化事業と併せて、青少年の育成事業、及び地域連携事業などを次のとおり行った。 ①「こどもの夢ひろば“ポレロ”～つながる・集まる・羽ばたく～」(8/1・2):仙台市出身の著名アーティストによる記念企画とタイアップし、こども向けのコンサートの他、ミュージアムと連携した体験型コンテンツ等の多様なプログラムを、施設を総合的に活用して実施した。 ②ガス局共催料理教室(7/25、9/14、11/21、2/13):仙台市ガス局の協力を得て、親子向けや男性向け・健康料理など、時節に合わせたテーマごとの料理教室を開催した。 ③インド舞踊公演(9/14):震災復興支援の一環として、インド政府との共催により「グジャラート古典舞踊団」の招へい公演を実施するとともにインド料理教室を開催した。 ④クリスマスコンサート(12/20):サンクトペテルブルグ室内合奏団によるクリスマスをテーマにした耳馴染みのあるプログラムでのコンサートを実施した。併せて地域の学校や子どもたちとタイアップしたロビーコンサートも行った。 ⑤ギャラリー企画(通年):3階ギャラリーの活性化と地域連携を目的とし、旭ヶ丘地区をテーマにした写真展や「こどもの夢ひろば“ポレロ”」写真展、地域町内会等と連携した「子ども神輿展」を実施した。 ⑥パロック音楽&パロックダンス ワークショップ&コンサート(11/28・29):楽都仙台の中心施設にふさわしい企画として、次代を担う地域の青少年を中心に、音楽への関心と理解が深められる古典音楽を取り上げ、舞踊のワークショップとコンサートを実施した。 ⑦ホール見学会(3/28):コンサートホールを会場として“音”をテーマにした見学会を、地域の子どもたちを対象に行った。 ⑧地域連携事業(通年):旭丘小学校の課外授業である「旭ヶ丘森がっこファーム収穫祭」を中心に、旭ヶ丘市民センター、近隣町内会など諸機関との連携協働を深めながら、「子ども神輿展」や「ホール見学会」を実施した。 ⑨年央・調査:今後の事業展開に向けた事業調査を行った。 ⑩コピーサービス事業:施設利用者用のサービスを継続して実施した。
11	イズミティ21 活性化事業	通年	イズミティ21	602	10	販売手数料 10 指定管理者応募時の提案事項を中心に次の事業を行った。 ①泉中央地区プレイガイド事業(通年):利用者へのサービス向上の一環として、事務室受付にてイズミティ21を会場に実施する催事の入場券を受託販売した。また、仙台市市民文化事業団が主催する催事の入場券も併せて取り扱った。 ②市民協働ロビーイベント(1/19、2/17、2/18、3/15):ホールの保守点検日に使用せずに空いている大ホールロビーを活用し、市民協働で4つの事業を実施した。 仙台を拠点に詩人として活動する武田こうじ氏の詩の朗読と音楽とのコラボレーションで3回シリーズのロビーコンサート「街の詩を奏でる」を実施した。1/19はピアニストの澤田和歌子氏、2/17は常盤木学園高校音楽科1～2年生、3/15はピアニストの松坂優希氏が共演した。このコンサートのために創作された詩や楽曲も披露された。また2/18に聖和学園短期大学保育福祉学科と協働で「楽しい親子のファミリーコンサート」を実施した。近隣の複数の保育園からの来場もあり、ハンドベル演奏、パネル動物クイズ(手遊び)、音楽劇など多彩な内容で幅広い年代層の来場者から好評を得た。 ③ホール見学会(8/4 13時～、16時～):夏休みに小学4～6年生を対象に大ホールのバックステージの見学と舞台機材の操作体験を行う参加型イベント「小学生のための舞台ウラ探検ツアー」を実施した。参加者はステージ上で繰り広げられるこの日のために創作したミニ・ミュージカルの舞台担当スタッフとして照明、音響、舞台の各種機材を操作した。仙台を拠点に活動する劇団員がファシリテーター(案内役)、記録写真撮影に市民ボランティア、舞台機材の操作体験の指導役として指定管理者グループの構成団体である榊東北共立スタッフが参画した。 ④ピアノ弾き込みボランティア(8/25・26、12/11、2/22・23):大ホールのスタインウェイ社製グランドピアノを常に良好な状態に保つため、音楽大学卒業など専門的演奏技術を持つ市民ボランティアの協力により弾き込みを実施した。 ⑤市民ギャラリー・エントランスロビー展示(ギャラリー: 11/27～12/3、ロビー: 3/8～3/13):8月に実施したホール見学会の様子が市民ボランティアが撮影した写真展を市民ギャラリーで実施した。また、有料施設以外のスペースの活性化の一環として、2階ロビーを使用して「ロビーコンサート(街の詩を奏でる)関連企画「RE: プロジェクト」パネル展」を実施した。

③ミュージアム活性化事業

ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。

12	れきみん秋祭り	10/24、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	2,445	1	刊行物販売 1
	歴史民俗資料館と10-BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の10回目。「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手製の披露、併せてジャグリングやコマ回しなど、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催した。					参加者:5,398人
13	猿舞座のさるまわし	6/14	榴岡公園 歴史民俗資料館	28	0	
	山口県岩国市に拠点を置き、全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の、榴岡公園を会場とした7回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気の中で伝統芸と親しむことができた。					参加者:764人
14	朗読公演 「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」	8/9	歴史民俗資料館	27	0	
	朗読「リラの会」による「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」の3回目の公演。終戦記念日に近い日程で常設展示「農家の台所コーナー」において上演し、仙台空襲をより身近に、効果的に観覧者に伝えることができた。					参加者:21人
15	朗読公演 「あの日、あの時、私の記憶」	3/13	歴史民俗資料館	28	0	
	朗読「リラの会」により、2011年3月11日の体験記「東日本大震災の体験文集Ⅱ」をもとに構成された朗読作品を、効果的な音響と照明のもとで上演した。					参加者:16人
16	smt資源活用シリーズ	通年	メディアテーク	428	0	
	市民が推薦し合う映画紹介イベント「シネバトル」を開催した。2階映像音響ライブラリーとシアターの連動を図る活用モデル事業。映画文化の活性化、利用者間の交流を通じ、「our library & theater(我がライブラリー&シアター)」という意識をもつ利用者を育んだ。年4回開催(最終回はグランドチャンピオン大会、その後に上映会を開催)。					238人
17	活版印刷ワークショップ事業	通年	メディアテーク	96	0	
	メディアテークに寄贈された活版印刷機を使用可能な状態で保存し、デジタル製版主流の現在においてオールドメディアとしての活版印刷の技と術を継承し次代に伝えるワークショップを行うとともに、貴重な活版の道具類のミニ展示も行った。					ワークショップ参加者:24人
18	体験教室「親子でつくろう古代米」	5月～11月	富沢遺跡保存館・歴史民俗資料館他	586	154	古代米販売 128 参加料 26
	富沢遺跡保存館に隣接する水田で古代米(紫黒米)の栽培を行った。親子での協働作業を通じて、古代の歴史を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを知る機会となった。当年度は歴史民俗資料館の協力を得て、田植えから収穫まで計5回の活動を教室として実施し、20組59名が参加した。また、近隣の長町南小学校2年生123名が田植えや稲刈りなどの水田を活用した授業を行い、地域と連携した事業を展開した。収穫した古代米は、館のイベントや近隣の小学校などで試食や餅つきを行い、来館者や小学校の児童に提供した。					参加者:20組、のべ208人
19	市民参画 野外展示「池」環境回復事業	5月～10月	富沢遺跡保存館	712	10	参加料 10
	野外展示「氷河期の森」の池の環境回復活動(清掃およびザリガニ駆除など)を通して、他の参加者と連帯し、いのちを大切に、「氷河期の森」および仙台の自然を守っていくという意欲を育む事業として実施。活動内容としては定点観察と記録、外部講師を迎えた講義(1回)と観察会(1回)、ザリガニ駆除体験など。参加者以外の市民には「森を育てる」各回の動画公開(ホームページ)により、野外展示の状況などを伝えた。					参加者:のべ98人
20	ミュージアムフォトコンテスト 「氷河期の森・縄文の森の風景2015」	通年	富沢遺跡保存館・縄文の森 広場他	288	0	
	都市化が進む太白区長町～山田地区にとって、富沢遺跡保存館・縄文の森広場の野外展示は貴重な緑地として地域住民に親しまれているが、より多くの市民に両館の野外展示について知っていただくことを目的として、その魅力を1枚の写真で表現してもらい、表彰と展示等を行った。今年度は、合計27点の応募があった。					写真応募者:27人
21	ミュージアム・シアター「狩人登場」	7月～9月	富沢遺跡保存館他	798	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする身体表現ユニット「短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを計23日間行った。夏服及び鹿の角と毛皮を用いた特別な衣裳を制作し、儀式的パフォーマンスに用いたほか、ミュージアム・シアター「狩人登場」をイメージさせる展示にも活用した。ミュージアム・シアターの手法によって、知識としての理解や考古学の知的興奮に加え、当館の非日常的な空間を生かした特別な経験を来場者に提供した。					狩人登場:11回、のべ22人 パフォーマンス:12回、のべ60人
22	冬キラ☆今日の主役は氷河期の森	12/12・13	富沢遺跡保存館他	499	0	
	地域のイベントとしての定着と、地域の方々の参加しやすいかたちで「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的とし、東北芸術工科大学の学生の企画により、「たからさがしの森」というテーマで、野外展示に一层親しむ活動とした。また、配布したチラシにより、野外展示および企画への好感が高まった。					参加者:のべ333人

23	縄文祭復元事業	通年	縄文の森広場	1,796	0	公開イベント参加者: のべ181人
縄文人の暮らしの中で行われていたであろうまつりの復元を目指して行ってきた調査研究活動の成果をもとに、これまで復元製作してきた楽器を演奏するなどの公開イベントを行った。公開イベントでは、まつりの音楽や衣装・食などを市民・ボランティアのほかに、演奏家・劇団などと協同して創作した。						
24	学校・地域連携促進事業	通年	縄文の森広場	159	0	参加者:13人
縄文の森広場がより地域に根差した施設となることを目的に、山田上ノ台遺跡や縄文文化とは何であるのかを地域の人々に知っていただく機会を設け、近隣学校や地域の市民センター・児童館との結びつきを深める事業として実施。平成27年度は、土器片型そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベント「ドッキーをつくろう」を外部講師を招いて実施した。						
25	ライブ文学館vol.15「宮部みゆき 京極夏彦 東北で語る」	3/18	イズミティ21	2,008	1,430	入場料 1,430 入場者:377人
ホール、ギャラリーなどを会場に、朗読、音楽、映像、演劇などを交えて、文学作品をひとつのステージとして構成する催し。文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台の新たなブランドを醸成することを目的に、当年度は、宮部みゆきと京極夏彦を迎えて実施した。舞台は二部構成で、第一部では、東北を舞台にした宮部の小説「荒神」の二人による朗読と音楽の共演、第二部では宮部みゆき、京極夏彦に評論家の東雅夫を加えてのトークを実施した。						
26	仙台文学館まつり	8/22	仙台文学館	99	43	その他 43 入場者:2,011人
平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親しんでもらうため、夏休みの子ども文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやスタンプラリーを実施。秋以降の企画に繋げるような工夫も凝らした。						
27	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	864	1,314	刊行物販売 873 その他 441 収益事業 *収支は損益ベース
ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特長や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行った。 ①富沢遺跡保存館グッズ:氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等)や編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)を販売した。(支出74千円、収入77千円) ②縄文の森広場グッズ:縄文の森広場ボランティアスタッフによる手作りの勾玉など、商品の製作と開発を行った。(支出43千円、収入86千円) ③仙台文学館グッズ:前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売した他、文学館の森をイメージしたグッズを追加制作した。また企画展に合わせて、内容にふさわしいグッズの仕入れ販売も行い、来館者のニーズに応えた。(支出106千円、収入293千円) ④メディアテークグッズ:平成20年度制作木村浩一郎氏とのコラボレーション・グッズ、平成22年度制作の開館10周年記念グッズ、さらに平成25年度、平成26年度制作のカネイリとのオリジナルグッズの共同開発に続き、27年度も新たにオリジナル・グッズを企画制作し、販売を行った。(支出430千円、収入513千円) ⑤歴史民俗資料館グッズ:昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図の継続販売と、新規復刻地図(昭和22年仙台地図)の制作販売した。(支出211千円、収入345千円)						

④劇都仙台2015事業

都市文化を支える芸術として演劇の総合性と公益性に着目し、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑥の体系に基づき実施した。
①クリエイターの育成 ②活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ③教育や福祉など他ジャンルとの連携 ④良質な公演の機会の拡大 ⑤情報交流や協働 ⑥関連調査や研究など

28	10-BOXセレクション	通年	演劇工房10-BOX他	3,653	3,653	市補助金 3,207 入場料 446 対象者:のべ475人
優れた戯曲や良質な作品を広く市民に対して鑑賞の機会を提供するため、せんだい短編戯曲賞の大賞作品のリーディング公演や、街なかの飲食店などを会場に戯曲や小説などの名作を、朗読に演出を加えたスタイルの演劇公演にして行い、鑑賞層の拡大(創客)を図った。						
29	10-BOX夏の学校	7月～8月	演劇工房10-BOX メディアテーク	1,934	1,934	市補助金 855 助成金 1,000 受講料 79 対象者:30人 一般公開来場者:のべ498人
夏期学校のスタイルをとる人材育成プログラム。演劇の手法を用いて、創造・思考・表現を磨き、視野を広げる集中講座を実施した。 ①好奇心と創造のレッスン:広く一般を対象に、参加者が自分自身の中に潜む創造力と思考力を発見できることを狙いとした、造形、身体表現のワークショップと座談会を行った。 ②創作実験アトリエ:既に活躍するクリエイターを対象に、一般公開を前提とした「ONアトリエ」を開催した。						
30	市民能楽講座	6/19、7/25	能-BOX 日立システムズホール仙台	3,514	3,514	市負担金 2,348 入場料 1,166 入場者:6/19,41人 7/25,316人
「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。今回は、喜多流の能公演(7/25)を日立システムズホール仙台(青年文化センター)シアターホールで、講座(6/19)を能-BOXで行った。						
31	地下鉄東西線開業イベント「仙台市文化の力による心の復興事業」	12/18～20	演劇工房10-BOX他	4,128	4,128	市負担金 4,088 入場料 40 参加者:のべ1,035人
被災者に文化の側面から心の安らぎと明日への活力を感じてもらう機会を提供するため、地下鉄東西線開業に合わせ、卸町地区で舞台芸術公演を開催した。これまでの「劇都」等の取り組みの中で蓄積された人材やノウハウを最大限に生かす形で、演劇、能楽、寄席、音楽、ダンスなど、多分野の地元アーティストが関わった。						

32	全国シニア演劇大会in仙台	6/5~7	日立システムズホール仙台	2,477	0	
	シニア世代の生きがいとして、全国的にも演劇が注目されているなか、全国各地で活躍しているシニア劇団が一堂に会して公演を行う全国シニア演劇大会の第3回仙台大会を、仙台市、NPO法人シニア演劇ネットワーク(東京)と共催で開催。全国より7団体、仙台より2団体、計9団体が参加した。					入場者:2,604人
33	劇都仙台登竜門事業 (せんだい短編戯曲賞)	通年	演劇工房10-BOX 他	1,704	1,704	市補助金 1,704
	演劇の根底となる戯曲をつくる若手劇作家の活動にスポットをあてる「第3回せんだい短編戯曲賞」を開催。前年度に募集した作品から、選考委員(制作者)5名が大賞を選考した。最終候補作品を冊子化し、併せて次年度(第4回)の募集を行った。					【第3回】 応募:206作品 最終候補:9作品 大賞:1作品
34	舞台スタッフ☆ラボ	1/30~2/21	演劇工房10-BOX・宮城野区文化センター	775	775	市補助金 537 受講料 131 県負担金 107
	舞台芸術に関わる人材育成を目的に、舞台技術の豊かさと表現の楽しさを実践的に学ぶ講座として開催。レベル別に「基礎コース」と「発展・創作コース」の2つのコースを設け、基礎修了者向けの「発展・創作コース」では、公演現場にスタッフとして従事し、生の舞台づくりを体験してもらった。また、「映像」部門と「スタラボ“大”交流会」を新たなプログラムとして追加し、これから舞台創作に携わろうとする方にとってより実践的な講座とした。					参加者:のべ262人
35	能-BOX 経常事業	通年	能-BOX	626	626	市補助金 558 受講料 68
	能楽施設を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中逐晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)などを行った。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓も図った。					対象者:596人
36	共通経費(事業間連携活動等)	通年	演劇工房10-BOX他	1,163	147	市補助金 101 刊行物販売 46
	ホームページの更新をはじめとする劇都仙台事業や宝塚公演事業、有償事業等の共通業務、また教育や福祉など他の専門組織との協働事業やせんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売を行った。					
37	演劇-社会アクセス事業	通年	演劇工房10-BOX他	330	130	県負担金 130
	教育や福祉現場での課題を、演劇へのアクセスが少ない潜在的なニーズととらえ、演劇のコミュニケーション能力を育む機能を応用したワークショップを行った。現場に必要な指導者(ファシリテーター)の育成やプログラムの研究開発、また課題を解決するためのワークショップも実施した。さらに教育現場での演劇の次代の担い手である高校演劇部に重点支援するため、高等学校演劇協議会と共催し、地区大会等を開催した。					対象者:966人
38	音声学ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX 日立システムズホール仙台	0	0	
	磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者の指導も行った。3月下旬には1年間学んだ成果を披露する発表公演を行った。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催で実施した。					参加者:60人
39	大衆紙芝居ネットワーク事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が企画した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行った。					対象者:10人
⑤市民文化事業への支援事業						
40	支援・助成・協力事業	2回募集	—	20,689	20,024	市補助金 20,024
	市内で活動する団体・個人が行う芸術文化事業に対し、支援・助成・協力事業として公募により下記のとおり実施した。 ・支援事業:年4回発行の文化情報誌「季刊まちりょく」に市民企画事業の告知を掲載し、広報サポートを行った。 ・助成事業:6月と12月に募集し、募集ごとの助成審査会により資金援助を決定し交付した。 ・協力事業:特に公益性の高い事業や良質な文化事業についての事業団友の会会員への割引チケット斡旋協力の他、資料や機材の貸出、人材の紹介や派遣、企画協力、事務局への参画、会場協力などを行った。					支援:143件 助成:147件 協力:45件
41	名義後援	通年	—	0	0	
	団体・個人が行う芸術文化事業に対し、名義後援を行った。					155件

⑥地域文化事業

市民が仙台・宮城の地域に愛着を深め、この地の文化にますます誇りを持てるよう、生活文化を中心に情報を発信していく事業として実施した。

42	亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす	通年	市内各所	6,769	3,869	入場料 171 受講料 18 助成金 3,650 協賛金 30
<p>アートによる地域資源再発見・活用事業として平成24年度からの継続で実施。市民とアーティストが協働で「亜炭／埋もれ木」を切り口に、地域の記憶を掘り起こし、記録を作品化するとともに、市民共有財として広く情報を発信した。当時の証言録取や資料発掘から作品制作を通じて、高齢者の力を社会に活かすとともに、市民の芸術文化活動への参画機会を提供した。当年度は最終年度として、8/8～18にせんだいメディアテークで、集大成となる展覧会「やまのひかり川のほし」を実施した。</p>						入場者・参加者:のべ2,658人
43	モノと暮らす	通年	市内各所	904	0	
<p>「ものづくり」というキーワードのもとにジャンルを越えたプロダクトや取り組みの紹介を行うことで、それぞれの分野における仙台の役割を認識し、市民とともに「ものづくりを育ててきた街」としての仙台の姿を共有することを目的として、当年度においては下記の取り組みを行った。継続4年目。</p> <p>①企画展「杜の都の道具」(5/26～6/28/ライフスタイルコンシェルジュ):居久根の歴史から振り返り、現在も使われている木を素材にした道具に触れる企画展。「道具」を必要としなくなった現代社会において、暮らしの中から生まれた形である道具の役割、それによる手仕事を振り返る機会とした。期間中は関連講演を4回、特別講義を1回開催。(A:「居久根でつくられた道具から暮らしを考える」:結城登美雄 6/3 B:「仙台の工芸品にみる道具としての役割」:濱田淑子 6/10 C:「ブルーノ・タウトと日本の道具」:庄子晃子 6/17 D:「クラフトフェアの楽しみ方」:黒須敦子 6/24)いずれも於ライフスタイルコンシェルジュ。特別講義「秋岡芳夫が求め続けた工芸的な暮らしとせいさん」:舛岡和夫、佐藤明、菊地良寛、中島敏、秋月俊五 6/21 東北工業大学一番町ロビー4階ホール)</p> <p>②「仙台・杜の都のクラフトフェア」ボランティアのコーディネート:「仙台・杜の都のクラフトフェア」(10月開催)で配布する小冊子の制作や広報活動に従事する市民ボランティアを募集し、活動のサポートや連絡調整を行うことで、市民がイベントを支える側になる機会を創出した。</p>						①関連講演 100人 特別講義 75人 ②ボランティア 22人

⑦創造都市推進事業

仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進した。

44	仙台フォトコンテスト2015 ～地下鉄東西線*沿線風景	8月～2月	メディアテーク	1,505	1,505	市負担金 1,505
<p>地下鉄東西線沿線の地域資源の再発見と市民が写真表現を楽しむことを目的として、市民から写真を公募し展示した。2/5～10にメディアテークで写真展を、展示期間中に公開審査会と授賞式を行った。</p>						入場者:のべ1,129人
45	ワークショップ「となりの子育て」	6月～11月	エル・ソーラ仙台・立町マイ スクール児童館	688	688	市負担金 688
<p>演劇の手法を用いて子育てについて対話を重ねながら考えるワークショップを平日版、土曜日版として各5回、計10回実施した。進行役は演出家の生田恵氏。(公財)せんだい男女共同参画財団、立町マイスクール児童館との共催により実施。</p>						参加者:55人ほか子ども32人
46	地下鉄駅コンサート	9/26・27 10/3・4	地下鉄駅構内	887	887	市負担金 887
<p>仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催した。</p>						観覧者のべ:5,090人 出演:30団体
47	RE:プロジェクト	通年	市内各所	1,633	1,605	市負担金 1,604 参加費 29
<p>東日本大震災で大きな被害を受けた仙台市沿岸部を中心に、そこに暮らしてきた方々から地域に根付いてきた暮らしの話を聞き、地域の記憶をつなぐ取り組みとして、平成23年度から継続してきた事業。当年度は以下の活動を行った。</p> <p>①「RE:プロジェクト通信」:震災後に取材で訪れた地域を再訪し、地域の5年目を記録した。記録はフリーペーパー「5年目のRE:プロジェクト通信」として第0号から第6号まで各号7,000部発行。 ・第0号(創刊号)／第1号(若林区荒浜)／第2号(若林区三本塚)／第3号(若林区井土)／第4号(宮城野区和田新田)／第5号(若林区二木)／第6号(若林区藤塚)</p> <p>②「オモイデゴハンの作り方」:地域で採れた食材を使って、長く親しまれてきた味を再現し、ともに味わったり、地域で季節ごとに行われてきた手仕事を体験したりして、そこにあった暮らしについて共に語り合い、思いをはせる「オモイデゴハンの作り方」を3回実施。 【オモイデゴハンの作り方① ずんだ餅】8/9、【オモイデゴハンの作り方② 焼き芋】11/8、【オモイデゴハンの作り方③ しめ縄】12/1 いずれも於三本塚集会所、参加者①29人②45人③22人</p> <p>③「RE:プロジェクト記録展」:2016年6月に始まった当事業のこれまでの取り組みと、震災から5年を迎えようとしている地域の姿を伝えるため、写真パネルやこれまで発行してきた通信の展示を行った。H28.2/2～26 仙台市役所ギャラリーホール</p> <p>④「RE:プロジェクト 5年目のおはなし会」:「RE:プロジェクト通信」の取材に携わってきたライターの大西立目祥子氏と詩人武田こうじ氏を迎え、これまでの活動を通して考えてきたことなどを聞き手を交えて伺った。H28.2/26 仙台市役所ギャラリーホール</p> <p>⑤オモイデゴハン記録冊子「三本塚なんだりかんだり」:4年間継続してきた、集落ならではの伝統文化の良さを思い出して元気になる取り組み「オモイデゴハン」実施の際に行った三本塚住民へのヒアリングをもとに、三本塚の春と秋の年中行事についてまとめた冊子を発行した。</p>						②96人 ④28人

⑧育成・普及事業

主にアウトリーチの手法により、子どもや市民に芸術文化に触れる機会を広く提供した。

48	仙台市震災復興のための芸術家派遣事業 (文化庁委託事業)	5月～2月	各学校・地域	0	0	
<p>「仙台市震災復興のための芸術家派遣事業実行委員会」が文化庁から受託し、学校や保育所等170箇所子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。当財団は事務局の中核として文化庁との調整、実務統括、会計等を担当。実行委員会の決算規模は約2,200万円。また仙台市の負担金により、この事業の効果を一層高めるため、①事業関係者のみならず多くの市民に参加を呼び掛けるセミナー「アウトリーチ・ラボ」3回 ②他都市事例の調査 ③実施施設職員対象のアンケート調査 ④5年間の活動報告書冊子の作成を行った。</p>						170事業 参加者:約8,000人
49	公共ホール現代ダンス活性化事業	1月	10-BOX 他	1,143	184	入場料 150 受講料 34
<p>(一財)地域創造の登録アーティスト・青木尚哉(ダンサー)を迎え、1週間の滞在の間にアウトリーチとワークショップを複数回行い、最後に公演を行う一連の事業。これまでダンスに関わりの少なかった市民への働きかけや地域との交流を行いながら質の高いダンス公演を実施した。</p>						参加者:150人 入場者:56人
50	アーティストマネジメント事業	通年	各学校・地域	1,086	951	その他 951
<p>子どもたちや地域住民等がアートと触れあう機会を、有償で提供するアーティスト派遣事業。提供先のニーズに合わせ、オーダーメイドでアーティストの選定・プログラム開発を行い、近隣市町村の学校・公共施設で実施した。</p>						対象者:のべ861人

⑨出版及び作品収集事業

事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与した。

51	仙台文学館選書出版・販売	通年	—	551	54	刊行物販売 54
<p>現在入手しにくい文学作品を、文学館の選書として出版し、後世の人々にその作品の魅力を伝えていくことを目的としている事業。平成27年度は文化運動の草分け的存在でもある詩人、スズキヘキの詩集を刊行。雑誌や本に収録されているもののほかに、未発表のメモや原稿などの作品も収め、巻末にはさとう宗幸、佐藤通雅、岡崎光治の寄稿の他、年譜と解説を収録。既刊分についても継続販売した。</p>						
52	「仙台戯曲賞シリーズ」販売	通年	—	0	11	刊行物販売 11
<p>「仙台劇のまち戯曲賞」大賞受賞作品の上演機会を広げ「劇都仙台」を内外に発信することを目的に、「仙台戯曲賞シリーズ」01～04を窓口販売の他、ウェブサイトからの申込みによる継続販売を行った。販売価格は1,000円(税別)。販売作品は「闇光る」、「ドミノ」、「ミチユキキキサラギ」、「はだか道」。</p>						
53	市民文化事業団ブックレット 「文化芸術の社会再生力」販売	通年	—	1	5	刊行物販売 5
<p>事業団創立20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力」における井上ひさし氏他による鼎談と平田オリザ氏による講演録を採録し、平成20年度末に出版したブックレットの販売を継続して行った。</p>						

⑩広報事業等

54	広報事業	通年	—	5,011	5,011	市補助金 5,011
<p>文化情報誌「季刊まちりよく」の発行(年4回)を継続。当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介した。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営(アクセス件数:年77,681件)したほか、報道機関等への情報提供を随時行った。</p>						
55	市民文化事業団友の会運営	通年	—	2,761	1,538	友の会会費 1,538
<p>市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続した。月刊情報紙「市民ぶんかレター」による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業へのチケット先行サービスの提供等を行った(年会費1,000円)。</p>						会員:1,538人
56	事業団事業全体にかかる共通事務費	通年	—	2,826	0	
<p>事業全体の調整、新事業の企画・開発、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の事務経費等。</p>						

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業

平成28年に開催する第6回仙台国際音楽コンクールの準備を行った。

57	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	10,136	10,136	市負担金 10,136
<p>コンクール事務局の運営を行った。</p>						
58	委員会運営	通年	仙台市内・東京都内	1,669	1,669	市負担金 1,669
<p>組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催した。</p>						

59	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	7,697	7,697	市負担金 3,149 刊行物販売 1,008 その他 3,540
	第6回コンクールへの出場者募集と、DVDまたは動画データによる予備審査(非公開)を実施(平成28年1月)し、コンクール出場者を決定した。 応募者 ヴァイオリン部門:100人 ピアノ部門:270人 (31の国と地域から) 出場者(予備審査通過者) ヴァイオリン部門:40名 ピアノ部門:41人 (13の国と地域から)					
60	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	17,391	17,391	市負担金 17,391
	応募締切(11/16当日消印有効)に向け、国内外の音楽学校及び指導者等への実施要項の配布、国内外の代表的な音楽雑誌への広告の掲載などの広報活動を展開した。 締切後はコンクール開催に関する広報のため、印刷物作成配布、ホームページ運営等を行った。					
61	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	1,912	1,912	市負担金 1,912
	第6回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行った。 ①ボランティアリーダー会議の開催 ②会場運営サポート:コンクール関連コンサート等の会場運営 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営等 ④出場者サポート:外国語等の勉強会、交流サロンの運営準備等 ⑤ホームステイ受入れ:意見交換会、受入れ準備等 ⑥ボランティアプロジェクトチーム:市民と入賞者の交流イベントの企画運営、市民参加型ボランティア研修の企画運営					
62	第5回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート	通年	東京都他	10,842	10,842	市負担金 7,256 入場料・その他 2,386 助成金 1,200
	第5回コンクール優勝者の副賞として、関連主催事業及び国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供を行った。 ・ヴァイオリン部門優勝 リチャード・リン 4/24・25 名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演 愛知県芸術劇場 10/22 九州交響楽団と共演 アクロス福岡 3/13 第6回コンクール開催記念コンサート 仙台フィルと共演 日立システムズホール仙台 ・ピアノ部門優勝 ソヌ・パク 9/19 日本フィルハーモニー交響楽団と共演 横浜みなとみらいホール 3/13 第6回コンクール開催記念コンサート 仙台フィルと共演 日立システムズホール仙台					
63	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	市内各所	7,265	7,265	市負担金 6,707 入場料 558
	①コンクール入賞者による「学校訪問ミニ・コンサート」を開催した。 ・7/7・8 ピアノ部門第5位 片田愛理 大沢小学校、鶴巻小学校 ・11/17・18 ピアノ部門第4位 ソナ・パク 作並小学校、田子中学校 ②コンクール入賞者と学生・市民オーケストラの共演の機会を設けることにより、音楽振興と交流を図った。 ・8/9 ヴァイオリン部門4位 アンナ・サフキナ 宮城教育大学交響楽団 日立システムズホール仙台 ・11/22 ピアノ部門第4位 ソナ・パク 仙台市民交響楽団 日立システムズホール仙台 ③クラシック音楽鑑賞の普及とコンクールのPRを目的に、「街かどコンサートシリーズ」及び「SIMC@交流シリーズ」を開催した。 ・街かどコンサート「はばたけコンチェルト」 ソリストをオーディションにより選考し、仙台フィルメンバーによるアンサンブルと共演するコンサート Vol.1 1/17 日立システムズホール仙台、Vol.2 2/28 イズミティ21、Vol.3 3/21 宮城野区文化センター ・街かどガラ・コンサート 12/9 イズミティ21 ・SIMC@交流シリーズ 6/21 Piano! Piano!! Piano!!! 9/6、1/19 両部門審査委員長によるトーク・イベント「音楽と音楽家」 3/13 第6回仙台国際音楽コンクール開催記念コンサートアフタートーク ④第6回コンクール中に開催する「審査委員によるマスタークラス」の受講生を募集・選出した。					

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

64	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台 他	23,329	23,329	市負担金 15,116 受講料・入場料等 8,213
	仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。音楽監督を小森康弘氏に委嘱、練習等の指導は仙台フィルハーモニー管弦楽団の楽団員が行った。 秋の定期演奏会、春のスプリングコンサートを次のとおり開催。 10/18 第25回定期演奏会 3/27 2016スプリングコンサート(いずれも日立システムズホール仙台 コンサートホール) 他に、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによるワークショップ受講(7/3 日立システムズホール仙台)、仙台ジュニアオーケストラ「アンサンブルコンサート」への出演(9/13 田子西復興公営住宅集会所)も行った。					

(4)演劇系練習施設運営事業

65	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	25,402	25,402	市補助金 19,368 利用料等 6,034
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、「能-BOX」の運営を行った。					

(5) 芸術文化受託事業

(単位:千円)

66	市制施行126周年記念コンサート	7/6	イズミティ21	4,158	4,158	市受託料 4,158
	仙台市の市制施行記念式典の一環として開催される仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会を開催した。ソリストには、第5回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第5位入賞の片田愛理さんを起用した。					入場者:1,290人
67	アート事業・人材育成事業調査	通年	メディアテーク	5,013	5,013	市受託料 5,013
	文化・芸術活動の創造性により、若い世代の活力を引き出し、まちの新たな魅力を作り出すことで仙台及び東北の復興を図るため、メディアテークを核とした人材育成事業と国際的・先進的なアート事業の開催に向けた事業の方向性等の検討を行った。館長を座長に外部専門家をアドバイザーに迎えた6回のセッションを経て新たなアート事業の方向性を提案するとともに、シンポジウムを開催して市民意識の涵養を図った。					シンポジウム:217人
68	震災の記録・市民協働アーカイブ事業	通年	メディアテーク	15,360	15,360	市受託料 15,360
	大震災を受け、復旧、復興に向かう仙台のまち、ひと、動きを、市民、専門家、スタッフが協働して記録・発信し、市民共有の財産として保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を運営した。具体的には①震災以降の仙台地域の状況を写真や映像で記録 ②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管 ③収集した資料を一部選別し、ウェブサイトを通じ配信した。また学校の防災教育と連携し資料の活用を図るほか、展示や上映会などの開催を通じて震災の記録の継承を図った。					③公開コンテンツ映像22本、写真417枚、ウェブ閲覧数約413万回
69	震災メモリアル・市民協働プロジェクト「伝える学校」事業コーディネート・支援業務	通年	—	36	150	市受託料 150
	仙台市市民局市民協働推進課がNPO等と協働し実施する事業「伝える学校」への制作支援を行った。「RE:プロジェクト」との関連部分も含め、仙台市が進める震災復興事業全体の、文化面での成果向上を図った。特に、市民参加型プログラム「開書き—あの人に会いに行く—」においては、「RE:プロジェクト」の取り組みの中で育んできた地域住民とのつながりや開書きによる生活文化を掘り下げていく手法を活かしながら事業を進めることができた。					

2. 定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				入場者数等・備考

(単位:千円)

① 仙台文学館普及啓発事業

70	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	627	742	その他 742
	特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えた。 ①特別展「北杜夫—どくとるマンボウの生涯」関連:館長小池光と北杜夫長女であるエッセイスト・斎藤由香氏との対談、北杜夫担当編集者だった宮田穂菜氏や、日本文学研究の第一人者である石原千秋氏(早稲田大学教授)による講演会、地元演劇人による「どくとるマンボウ」シリーズを読む展示室劇場などを開催した。 ②「こども文学館 えほんのひろば 十一ぴきのねこと馬場のぼるの世界」関連:市内で活動するグループによるお話会や、読み聞かせワークショップ、絵手紙教室を開催した。 ③特別展「竹久夢二—詩と絵の世界—愛とロマンと漂泊と」関連:関係者による講演会、詩の朗読イベントなどを開催した。 ④企画展「人と街をつなぐ—みやぎで生まれた本・雑誌」関連:地元作家と編集者による対談や講座を開催した。 ⑤企画展「井上ひさし資料特集展Vol.5」関連:展示室内でのリーディングイベント、読書会を開催した。					参加者:のべ2,854人
71	ことばの祭典—短歌・俳句・川柳への誘い	6/27	仙台文学館	420	420	市補助金 420
	短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選んだ。					参加者:のべ120人
72	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,559	2,312	受講料 2,237 市補助金 75
	文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図った。 ①小池光短歌講座:館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回開催した。 ②仙台文学館ゼミナール:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ5回連続で開催した。 ③仙台朗読祭、詩の文学館などリーディングイベント:広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらった仙台朗読祭や、地元詩人によるポエトリーディングなど、文学作品の朗読イベントを開催した。					①839人 ②2,190人 ③250人
73	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	54	54	市補助金 54
	県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行った。また、小中学生に向けた常設展示の内容を学ぶためのワークシートを作成した。					
74	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。					27件 1,520人

75	情報誌の発行	通年	—	1,084	1,084	市補助金 1,084
文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続した。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図った。						
76	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナーとして運営。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図った。「こどもの本の部屋」を会場とした、近隣児童館との連携による乳幼児向け事業も実施した。						
77	文学館友の会・土井晩翠顕彰会の支援	通年	—	0	0	
両会の事務局を担当。友の会は文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。顕彰会は晩翠わかば賞・晩翠あおば賞をはじめ、晩翠忌記念イベントなどの事業を実施した。						
78	出版物等の販売	通年	—	0	132	刊行物販売 132
平成16年度に発行した文学館選書「天地有情」の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売した。						

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				入場者数等・備考

(単位:千円)

①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業						
79	対話の可能性 (1)対話のための発信事業	通年	メディアテーク	16,113	16,113	市補助金 7,630 入場料 483 助成金 8,000
市民力育成を目指し、広い対話を誘発するメディアテークからの投げかけとする事業。 ①展覧会「物語りのかたち 現在(いま)に映し出す、あったること」:平成25年度から継続の「対話の可能性」事業のまとめの展覧会として、スタジオ活動の成果の一つである東北伝承の民話を題材に、いがらしみきお、山本高之、田村友一郎の3名が作品を制作し発表するとともに、スタジオ活動の成果である民話の映像記録を展示した。かたちを持たない民話という物語を、さまざまな手法とメディアによって展覧会として表し、民話の中に生きる豊かなエッセンスを現在の社会のなかに形象した。また、本企画を通じ、現代アートが地域文化の本質を現代に伝えるメディアとなり得ることを広く市民とともに確認した。 ②スタジオ情報発信:年毎に設定するテーマに基づいた記録、随筆、論考、写真などを掲載し、仙台/東北における芸術文化の現況を広く共有するツールとして、機関誌「ミルフイユ」の第8号を発行した。今号は、展覧会「物語りのかたち」の記録を兼ねるものとして制作した。また、「考えるテーブル」などの市民を交えたスタジオ協働事業や地域文化アーカイブなどの事業を、フリーペーパーや7階ラウンジにおける展示等の機会を通じ、広く広報した。						
80	対話の可能性 (2)対話の場づくり協働事業	通年	メディアテーク	3,002	3,002	市補助金 2,002 助成金 1,000
市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意した。 ①スタジオ協働事業:「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議などを中心に、市民力の醸成、市民の主体的な社会参画が文化面から活性していくことを目指して実施した。また「メディアスタディーズ」として公募したアートやメディアにまつわるさまざまな文化活動グループなどとの協働を行った。 ②地域文化アーカイブ:市民の自発的な地域文化財のデジタル化、保存、活用を促す取り組みとして実施した。成果物は、広く市民に活用される財として、メディアテークに保存されるとともに、ライブラリーへの配架やウェブサイト等で発信された。また、それらの財をもとにした催事を開催した。これらの取り組みは、国内に例のない地域文化にまつわる映像の蓄積=デジタル・アーカイブを形成している。						
81	発信・施設活用推進事業	通年	メディアテーク	4,892	4,892	市補助金 4,585 刊行物等販売 107 助成金 200
館長を軸とした発信事業と併せて、各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークの展開を図った。 ①館長発信事業:発信力ある館長を軸に、「鷲田清一とともに考える」と題した著名なゲストとのトークをシリーズで開催するなど、市民のニーズをつかみつつメディアテーク全体の新しい姿を示した。その際、館長の動向を伝える情報発信なども行い、より広く理解されるように努めた。 ②地域文化連携・施設活用推進:各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示、上映会など多様な活用事例を示した。さらに、市民図書館とのフェスティバルを開催し、さまざまな活動団体を顕在化するとともにより広い関心を集め、交流を促進する機会を作った。また、取り組みが広く市民に届くよう定期的な広報や啓発、情報発信に努めた。 ③バリアフリー・デザイン事業:目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳や音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民協働で行った。成果物を活用した上映会等の開催や、作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた一連の取り組みを行った。						

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等・備考
(単位:千円)						

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

82	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	62,009	62,009	市指定管理料 62,009
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行った。					
83	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	598	598	市指定管理料 598
	「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「七夕と盆」「仙台の正月」「ひな祭り」「お帰らないミス宮城～答礼人形と青い目の人形～」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介した。また、震災関連展示として「六郷・七郷・高砂の人々の暮らし」を行った。					入館者:37,566人

①特別展・企画展及び関連事業

84	特別展「仙台のまちと近代交通」及び関連事業	11/14～4/17	歴史民俗資料館	1,278	1,278	市指定管理料 1,278
	明治維新以降の交通機関の革新で登場した人力車や馬車、蒸気船、鉄道などの新しい交通用具によって変化しはじめた生業と仙台の街について紹介した。特に鉄道の開設と仙台駅の開業に注目し、仙台の街並みの変容から高速鉄道網が地域に与えた影響について考察した。					観覧者:11,967人
85	企画展「学都仙台と杜の都～仙台文化を訪ねて～」及び関連事業	6/27～11/3	歴史民俗資料館	1,309	1,309	市指定管理料 1,309
	戦前、軍都・学都・杜の都と称された仙台は、戦後・高度経済成長期には「杜の都」の都市イメージを展開させるとともに、現在では音楽や演劇活動に象徴される「楽都」「劇都」の都市イメージへと発展させてきたが、当企画展では、現代の仙台文化の源流のひとつである学都仙台と杜の都仙台について、教科書と教育資料、そして仙台の街並の移り変わりに関する資料を通して振り返り、仙台文化を展望した。					観覧者:11,588人
86	企画展「暮らしの中のリサイクル～明治・大正・昭和～」及び関連事業	4/25～6/14	歴史民俗資料館	84	84	市指定管理料 84
	日本人は高度経済成長によって、大量生産、使い捨ての生活をしてきたが、今日ではそれを見直し、資源の節約や環境汚染防止などのために不用品、廃棄物などを再利用するリサイクルが進められている。展示では、かつて暮らしの中でどのように物を大切に再利用してきたのか、人々の知恵と工夫を紹介した。					観覧者:12,848人
87	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	133	133	市指定管理料 133
	<p>①資料館サポーター養成講座(6月～3月):資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことを目指し、「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで上・下半期の2回コースで開催した。</p> <p>②子ども講座(7/24・31、3/12):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙芝居の講座を開催した。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/25・26・29、5/2～6):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験した。</p> <p>④クイズラリー(夏休み7/18～8/23・冬休み12/19～1/11):クイズやパズル形式での自主見学学習を推進した。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8/1・14、10/12、2/13):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/17):家庭に埋もれている8ミリフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開した。</p>					<p>①19人</p> <p>②49人</p> <p>③9,599人</p> <p>④301人</p> <p>⑤58人</p> <p>⑥58人</p>
88	資料館だより等の発行	通年	歴史民俗資料館	165	165	市指定管理料 165
	毎月発行している「歴史民俗資料館だより」を市内全小学校に配布するとともに、近隣の30の町内会に毎月届けた。また、資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学習に資するよう取り組んだ。					
89	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	564	564	市指定管理料 564
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行した。					
90	調査報告書の発行	通年	歴史民俗資料館	474	474	市指定管理料 474
	仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行した。					

91	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
<p>学校教育との連携促進を目的として実施する事業。年間100校を超える市内外の小学校3年生が社会科学習の一環として見学に訪れ、石臼挽きなどを体験をした。また、学芸員資格取得を目指す大学生のために、単位取得に必要な実務実習の受入れ(8月)や、近隣中学校からは職場体験生徒を受け入れ、実習・体験活動を実施(11月)した。さらに、社会教育をテーマとして現職教員を対象とした研修を実施(8月)した。</p>						

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

92	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	79,656	79,656	市指定管理料 79,656
<p>旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理した。</p>						
93	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,688	13,688	市指定管理料 13,688
<p>地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の屋外展示を総合的に行った。 入館者:41,168人</p>						

①特別展・企画展

94	特別企画展「3万年前の旧石器ライフ」	7/17～9/23	富沢遺跡保存館	2,201	2,201	市指定管理料 2,201
<p>旧石器時代は遊動生活による狩猟採集社会と考えられている。しかし、約2万5千年続く日本の後期旧石器時代には、さまざまな規模や性格を持った遺跡が混在しており、単純な図式で把握することが難しくなっている。特に、約3万年前を境とした前半期と後半期では、遺跡の形成過程が大きく異なり、何かしらの社会的なインパクトがあったと考えられる。本企画展では、旧石器時代の居住形態や生活様式の実像に迫るべく、環状ブロックなどの研究成果を紹介した。また、企画展と関連して、「明らかにになった3万年前の暮らし」題する記念講演会を1回実施した。関連イベントとして、企画展開催中に体験コーナー「ミニチュア石斧をつくろう」の体験教室を3回実施し、さらに市内で活動している劇団員が旧石器時代の狩人に扮して館内や野外展示「氷河期の森」出没して入館者と触れ合うミュージアムシアター「狩人登場!!」を企画展開催中の土曜日・日曜日に実施した。</p> <p>観覧者:9,554人 (記念講演会:60人、 体験教室:98人)</p>						
95	企画展「仙台の遺跡④ 大野田・西多賀あたりの古墳」	4/10～6/21	富沢遺跡保存館	75	75	市指定管理料 75
<p>近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。当企画展では、仙台市内から出土した身近な資料をシリーズで紹介するもので、今回は大野田・西多賀周辺の古墳について取り上げ、発掘調査で出土した資料とともに紹介した。企画展の関連として、ギャラリートークや講演会を実施した。</p> <p>観覧者:10,304人 (ギャラリートーク:12人、 講演会:51人)</p>						
96	企画展「やきものの歴史～遺跡からの出土品でたどる～」	10/10～12/21	富沢遺跡保存館	76	76	市指定管理料 76
<p>縄文時代から作られ、使われてきた「やきもの」の歴史を、仙台市内の遺跡を中心に紹介し、その特徴などについて、やきものの優品をもとに紹介した。大型の縄文土器を含め、土製品、弥生土器や土師器、須恵器、近世の陶器など約90点を展示した。企画展の関連として、ギャラリートークや講演会を実施した。</p> <p>観覧者:9,432人 (ギャラリートーク:7人、 講演会:26人)</p>						
97	企画展「地底の森ミュージアム2015」ほか	1/19～3/13	富沢遺跡保存館	28	28	市指定管理料 28
<p>富沢遺跡保存館で行われた当年度事業と、ボランティア会、友の会の活動等を紹介するとともに、「氷河期の森・縄文の森の風景」のフォトコンテストの写真展示を行った。「参加・体験できる」活動を主に取り上げることで、次年度の広報を兼ねるものとした。</p> <p>観覧者:4,141人</p>						
98	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,078	1,078	市指定管理料 1,078
<p>①考古学講座(11/21、1/16):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果紹介を、公募による一般市民を対象とし2回シリーズで実施した。 ②体験学習(通年):体験を通していしへの技術を学ぶ体験学習。石器づくりと使用の体験を中心に実施した教室は、親子対象1回、一般対象1回を行った。また、ゴールデンウィークや小中学校の秋休み期間中には手づくり工房を行い、石器づくりや木の実などを使った人形づくりを実施した。 ③たのしい地底の森教室(通年):当館学芸員が体験教室や読み聞かせ、富沢遺跡発掘調査の成果や「氷河期の森」の植物などの説明会を行った。原則として毎月2回の日曜日に合計19回開催した。 ④地底の森フェスタ2015(10/12):ボランティア会とともに企画実施し、石器づくりや火おこし、やり投げ等の体験活動を、屋外を会場として自由参加の形態で開催した。 ⑤利用学習事業(通年):小学校5・6年生及び中学校1年生を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を、参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して実施した。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後は次年度の活動に活かしていくために、実践集録を作成・ウェブ公開した。 ⑥市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による申込者7名を対象に、1年間にわたり週1回館学芸員が支援する活動日を設けた。成果を活動報告書としてまとめた。 ⑦ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者6名及び公募による申込者12名に全6回の新規養成講座を実施した。また、本年度登録ボランティア78名に対し展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。 ⑧地底の森ミュージアム友の会活動の支援(通年):博物館活動の啓発を目的とする友の会活動を、活動内容への助言や講座への講師派遣などを通して支援した。 ⑨地域や大学との連携:地域のイベントである太白区民まつりなどに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化を図りながら実施した。東北学院大学との連携事業として、東北学院大学レスキューパネル展「大学生による文化財レスキューー復旧期5年間でできたこと」を当館研修室で開催(1/19～2/5)し、関連するイベントとして「まぼろしの「トミザワトウヒ」づくりを行った。 ⑩博物館実務実習:12月に博物館学芸員資格取得を目指す大学生を対象に受入れ、5日間の実務実習を行った。 ⑪職場体験:市内中学校からの要請に応じて、4月～3月に中学校の生徒を受け入れて職場体験を行った。</p> <p>①参加者:114人 ②参加者:のべ1,452人 ③参加者:のべ344人 ④参加者:のべ1,227人 ⑤参加者:23校1,465人 ⑥研究員:7人 ⑦養成講座・実技研修参加者:のべ103人 ⑧個人会員20人 家族会員9人 賛助会員1人 ⑨パネル展:952人、イベント:15人 ⑩参加者:4大学 7人 ⑪参加者:11校 50人 ①～⑪の参加者:のべ5,766人</p>						

99	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	144	144	市指定管理料 144
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の館職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、以降の博物館運営に役立てた。					
100	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	911	911	市指定管理料 911
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成した。なお、特別企画展については展示図録を刊行した。					
101	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。					
102	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	347	347	市指定管理料 347
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行った。併せて保存処理検討会を2回開催した。					
103	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	223	223	市指定管理料 223
	平成28年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行った。					
②地域との連携事業						
104	運営懇談会	7月、2月	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るため当館の活動を紹介したり、当館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行う機会として、近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等の方々に出席いただき懇談会を2回開催した。また、学校や地域との連携事業を模索する場とした。					

(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

105	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	41,031	41,031	市指定管理料 41,031
	縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理した。					
106	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	14,045	14,045	市指定管理料 14,045
	施設内展示及び野外展示を適正な状態に保った。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。					
107	ミニ企画展「縄文人の暮らし」	通年	縄文の森広場	35	35	市指定管理料 35
	<p>仙台市域の遺跡を中心に、発掘調査から明らかとなった縄文時代の人々の暮らしについて、以下の企画展示を行った。</p> <p>①「縄文人の暮らし—すまいと生活」4/17～6/28 ②「縄文人の暮らし—道具と生活」7/17～9/23 ③「縄文人の暮らし—食べ物と生活」10/16～12/20 ④「縄文人の暮らし—祭りの様々な道具」1/22～3/21</p>					
108	縄文まつり・縄文コンサート	5/5、7/18、11/1、2/6・13	縄文の森広場	932	932	市指定管理料 932
	季節ごとに開催する自由参加イベント。春・秋には各種縄文体験や当館にちなんだゲームなどのイベントを主とした「縄文まつり」、夏・冬には縄文時代や古代に関連する演奏、地元住民や近隣小学校の吹奏楽部による演奏を主とした「縄文コンサート」を実施した。					
109	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	3,094	3,094	市指定管理料 3,094
	<p>①団体予約：子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験を行った。</p> <p>②随時体験：来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した。</p> <p>③体験講座：「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室を行った。</p> <p>④特別イベント：春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベントを行った。</p>					
110	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	179	179	市指定管理料 179
	各種体験活動におけるボランティアスタッフを対象とした、展示についてのより分かりやすい説明や体験活動の補助のための研修事業。当館でのボランティア活動を新たに希望された8名の方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行った。					

111	縄文講座	12月～2月	縄文の森広場	94	94	市指定管理料 94
	縄文時代研究について各分野の第一人者による以下の講演会を行った。 ①「お墓からみた縄文人のくらし」(12/20)講師:山田康弘氏(国立歴史民俗博物館) ②「縄文人の石材利用」(1/17)講師:吉川耕太郎氏(秋田県立博物館) ③「火炎土器を造った人びとのくらし」(2/21)講師:小熊博史氏(馬高縄文館)					参加者: ①75人 ②63人 ③75人
①学校との連携事業						
112	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,405	2,405	市指定管理料 2,404
	小・中学校教育での当館利用推進を目的として、事業参加校(仙台市内31小学校2,139名)に交通費の補助を行った。学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行うなど、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行った。					31校2,139人
113	学校教育との連携	7、8、10、11月	縄文の森広場	2	2	市指定管理料 2
	学校教育との連携を促進を目的として次のとおり研修会や受け入れを行った。①市内小・中学校の教職員を対象とした当館の概要説明や体験活動事業を周知するための教職員利用研修会の実施、および教員研修の受け入れ(7～8月)②学芸員資格取得を目指す大学生のための、博物館実務実習の受け入れ(10月)③山田中学校と柳生中学校から職場体験の生徒の受け入れ(11月)					①6人 ②2人 ③2校7人
②地域との連携事業						
114	運営懇談会	通年	縄文の森広場	2	2	市指定管理料 2
	当館の活動を紹介し理解を得ること、また等館への意見やニーズを把握し運営に役立てることを目的として、縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、運営懇談会を開催した。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とした。(参加者:第1回7/24 18人、第2回2/17 18人)					
115	縄文の森広場子ども友の会の育成	通年	縄文の森広場	33	33	市指定管理料 33
	上野山小学校の5年生が縄文畑に展示の一環として育てているアワ・キビの播種から採取までを体験するなど、その利活用を図った。また、縄文時代に関する生活体験などを行った。					
③調査研究事業						
116	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	292	292	市指定管理料 291
	各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。					
117	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	133	133	市指定管理料 133
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究した。平成27年度は監修者の浅川滋男氏(公立鳥取環境大学)を招聘し、復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討した。また、土葺き堅穴住居の上屋構造に関する調査などを行った。					
118	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
	当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施した。					
119	平成28年度ミニ企画展「縄文人の精神文化」資料調査	通年	縄文の森広場	21	21	市指定管理料 21
	平成28年度に予定している、縄文人の精神文化をテーマとした企画展の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施した。					
120	資料の収集・保管	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行った。また、事業活動の充実を図るため、関連資料の収集を行った。					

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

121	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	170,473	170,473	市指定管理料 170,473
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動の支援を目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。					入館者:63,929人 収益事業を含む
122	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	市指定管理料 0
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介。新資料収集に応じてまた、時宜にかなったテーマで展示替えを行い新しい情報の提供を行った。					
①特別展・企画展						
123	特別展「北杜夫一どくとるマンボウの生涯」	4/25～6/28	仙台文学館	2,325	2,325	市指定管理料 2,325
	昭和23年東北大学医学部に入学後約5年間を仙台で過ごし、在学中に初めて雑誌に投稿・掲載された小説ではペンネームを「杜の都・仙台」にちなんで名乗るなど、仙台との縁も深く、小説にも仙台の体験を書き記している小説家・北杜夫(平成23年没)の特別展を行った。純文学から大衆小説、そして父・斎藤茂吉の随想など、幅広いジャンルで読者の支持を得た作家の生涯とその作品の味わいを、関係者をはじめ世田谷文学館、斎藤茂吉記念館、日本近代文学館などに協力を仰ぎ、豊富な自筆資料からたどった。					観覧者:2,809人
124	夏休み企画「子ども文学館えほんのひろば 11びきのねこと馬場のぼるの世界」	7/17～8/23	仙台文学館	3,218	3,218	市指定管理料 3,218
	夏休み恒例の企画として、絵本を自由に読める「絵本の部屋」や、市内で活動するグループによるお話し会・読み聞かせワークショップ等を開催した。また、3階の企画展示室では、絵本作家・馬場のぼるの「11びきのネコ」をはじめとする絵本の原画展を開催した。子どもの感受性を育むとともに、大人が読んで楽しい、物語と想像の絵本の世界を楽しんでもらった。					観覧者:8,498人
125	特別展「竹久夢二・詩と絵の世界-愛とロマンと漂泊と」	9/12～11/8	仙台文学館	3,885	3,885	市指定管理料 3,885
	明治末期から大正、昭和にかけて、美人画や木版画、またグラフィックデザイナーとして活躍し、現在も熱烈なファンが多い竹久夢二の作品を幅広く紹介した。夢二は仙台の童謡専門雑誌「おてんとさん」にも作品を寄せるなど、仙台との縁も深い。展示では、こうした仙台と夢二の交流についても、仙台文学館所蔵の資料などで紹介した。					観覧者:4,622人
126	企画展「人と街をつなぐ-みやぎで生まれた本・雑誌」	11/21～1/24	仙台文学館	586	586	市指定管理料 586
	開館以来これまで収集してきた、地元の出版社が刊行した書籍・雑誌を展示紹介し、地元の出版業界の足跡をたどった。既に廃刊された雑誌や、今はなき出版社の出版物を手にとれる形で展示することにより、地元の出版社が仙台の文化向上に果たした功績を改めて振り返った。また、現在活動している地元の出版社と連携して、対談やトークイベント等の関連事業も展開した。					観覧者:1,000人
127	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/11	仙台文学館	136	136	市指定管理料 136
	文学館あての年賀状を広く一般から募集し展示した。併せて文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示した。					観覧者:3,602人
128	企画展「井上ひさしの江戸～井上ひさし資料特集展vol.5」	2/6～4/10	仙台文学館	1,512	1,512	市指定管理料 1,512
	2011年に寄贈された、初代館長・井上ひさしの肉筆資料から「江戸」をテーマとした作品の資料を選び展示した。膨大な創作メモやプロットから、作品の創作過程をたどるとともに、川西町の遅筆堂文庫の協力を得て、作品執筆にあたって使用した書籍、参考資料なども紹介した。					観覧者:1,362人
129	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	8,956	8,956	市指定管理料 28,956
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行うとともに、収蔵した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行った。また、経年劣化により傷んでいる資料の修復を行った。					
130	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	1,928	1,928	市指定管理料 1,928
	平成28年春の特別展「まど・みちおのうちゅう」の準備を進めた。また、仙台で活躍する文学者や文学に描かれた仙台についての調査を進め、随時紹介した。					

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					備考

(単位:千円)

(1) 仙台市青年文化センター管理運営事業

131	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	338,197	338,197	市指定管理料 338,197
<p>平成24年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その4年目となる当年度は次のとおり施設運営を行った。</p> <p>(1) 利用者が安心して利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化した。</p> <p>(2) 利用者との積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を図った。</p> <p>(3) 施設利用に関すること及び芸術文化に関する情報を広く提供するなど広報を強化した。</p> <p>(4) 市民の文化活動の拠点施設であることをさらに認識し、施設の活性化及び利用促進につながる施設紹介事業をはじめとした各種事業を行った。</p> <p>(5) 利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続して実施した。</p> <p>(6) 震災を教訓にしたより実践的に対処できる防災体制を構築し、環境に配慮した各種施策に努めた。</p> <p>(7) 大規模改修に向けての設計や設備更新作業のサポートを、施設設置者とともにを行った。</p> <p>(8) 次年度開催予定の国際音楽コンクールに向けた、施設の整備等に努めた。</p>						利用者:311,284人 収益事業を含む

(2) 仙台市泉文化創造センター管理運営事業

132	仙台市泉文化創造センター(イズミティ21)管理運営	通年	イズミティ21	112,494	123,027	市指定管理料 123,027
<p>「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として、平成27年度から5年間の指定管理(公募)を受け、市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指して当年度は次のとおり施設管理運営業務を行った。</p> <p>(1) 施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させた。</p> <p>(2) 適切で丁寧な接客業務を行うと共に、アンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なった。</p> <p>(3) 施設を活性化させる事業として、プレイガイド(チケット販売)事業、市民協働による入場無料のロビーイベント、小学生を対象にしたホール見学会、ボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリーやロビーでの展示、新春いずみ寄席を行った。</p>						利用者:285,392人 収益事業を含む

(3) せんだいメディアテーク管理運営事業

133	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	536,790	536,790	市指定管理料 536,790
<p>人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特徴を最大限に発揮しながら、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画保全の実施に向けた検討を行った。</p> <p>メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援も行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行った。</p> <p>事業としては、震災後着手した「考えるテーブル」の事業を引き続き発展させるとともに、市民参加型事業を積極的に進めた。</p> <p>また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担った。さらに、学校との連携を図り、次世代の育成にも取り組んだ。</p>						利用者: 419,272人
134	せんだいメディアテークライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	9,507	9,507	市指定管理料 9,507
<p>映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民に情報検索及び閲覧の環境を提供した。</p> <p>また、せんだいメディアテークの事業、および「3月11日をわすれないためにセンター」を拠点として集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供した。</p>						映像資料貸出: 75,187件 smtコレクション:66タイトル